

校より引出だし目下皇城に向け運搬中なるが何様二千貫の重量を有し一丈五尺の高さあれば其運搬なか／＼困難にして二週間以上を費やさざれば皇城内に着せざるべしと云ふ 偕て此運搬方は神田美土代町一丁目一番地足立傳兵衛が請負ひ人夫二十名を以て曳き居れるが昨日迄には漸く萬世橋附近まで引出したるのみにして之れより本通りに出で萬世橋を渡り淡路町より神田橋を渡り丸の内に入り御濠端に添ひ日比谷より櫻田門に出で馬場先御門内の建設處まで運搬するの豫定なるが橋々にはウケを入れてそれを運ぶの手續にして其請負賃は一千圓以上なりと云ふ〔下略〕

(明治三十三年四月二十日『報知新聞』)

なお、同日付『日本』の記事によれば銅像には堅牢な板囲いを為し、周囲にはしめ飾りを施し、住友の定紋を置いた大提灯を四隅に掲げ、俗にコロと称する機械を用いて運搬したという。同年七月十日、据付工事等全て完成した。台座の左側面には記文を鋳出した銅板が嵌入されたが、記文の撰定と揮毫には紆余曲折があり、文学博士川田剛(甕江)撰文、織田宗之、文学博士重野安繹修撰、岡本碧巖揮毫の短い記文に定まって、これを本校が鋳造した。初め住友家および本校は二重橋近い場所に建設を希望したが、軍隊の訓練に支障を来す理由を以て二重橋外東馬場先門内の西南に建設されたのだという(『住友春翠』昭和三十年。同編纂委員会)。

## ⑥ 今泉雄作の辞任

明治三十三年八月二十三日、今泉雄作は本校教授から東京帝室博



今泉雄作

物館美術部長兼美術工芸部長に転任した。彼は本書第一巻に記したとおり、本校創設に係わり、教授となったのち、明治二十七年十月から同三十一年一月まで京都市美術学校長をつとめ、同年五

月十日、岡倉覚三辞職後の本校に戻って教授となった。担当は東洋美術史、図案法、図案実習、東洋考古学で、彼の転任により、東洋美術史は大村西崖が、東洋考古学は小杉樞郎が引継ぎ、図案法は今泉が嘱託として暫くこれを続行した。今泉の図案法講義についてはすでに本書第一巻で紹介したが、東洋美術史講義に関しては西方俊造筆記「東洋美術史」が残っている。これは明治三十一年九月から翌三十二年六月にかけての講義筆記で、日本美術史、支那美術略史、日本彫刻史、日本金工史から成る。東洋考古学については本保義太郎筆記「東洋考古学」(富山県立美術館蔵)がある。筆記の時期は前者と同じである。

今泉は帝博に大正四年一月まで勤務し、傍ら文展審査委員や各種博覧会鑑査官を歴任し、古寺社保存会委員、帝室技芸員撰択委員もつとめた。大正十三年四月十四日より昭和六年一月二十八日の死去まで本校嘱託として考古学講義を担当した。彼は東洋美術学者としてだけでなく、茶人としても有名で、茶道関係の書物を多く所蔵することでも知られていた。それらの書物は国立国会図書館に「今泉

文庫」として収蔵されている。また、本学附属図書館蔵書中に「无礙庵蔵書」の印のあるものを散見するが、无礙庵（無碍庵、無礙道人とも記す。）は今泉の筆名である。

## ⑦ パリ万国博覧会

明治三十三年（一九〇〇年）四月十四日から十一月三日までパリ万国博覧会が開催され、既述の仏文本校概要も教育部に出品された。美術部には本校教官も多くが出品したが、それはおよそ次のとおりである。

山名 貫義「松に富士」  
川端 玉章「晚秋溪澗」  
荒木 寛畝「枯木小禽」 「岩頭孔雀」  
本多 天城「羅浮の図」  
浅井 忠「海岸」  
和田 英作「機織」  
中村勝治郎「暮春」  
小林 万吾「夕の森」 「晚景」  
久米桂一郎「東京附近の冬夕」 「残曠」 「十月の陽光」  
黒田 清輝「湖辺」 「智・感・情」 「秋郊」 「樹蔭」 「寂寞」  
藤島 武二「池畔」  
石川 光明「古代鷹狩」 「今様婦人」 「藤原通成」 「狸」 「雌雄鶏置物」  
高村 光雲「盲人川を渡らんとす」 「山靈訶護」  
竹内 久一「肩車」

山田 鬼斎「農夫」  
長沼 守敬「老夫頭」  
沼田 一雅「猿廻し」 「秘曲吹奏」 「虎」  
黒岩 淡哉「子守」  
海野 勝珉「花瓶」  
海野 美盛「傀儡師丸彫置物」 「龍銀彫牧童置物」 「花瓶」  
向井 勝幸「元禄人物」 「花瓶」  
杉浦瀧次郎「置物」  
川之辺一朝「文台附属品硯箱外各種」

ほかに本校の卒業制作である溝口楨二郎「菅公左遷」、木村武山「高倉帝殿島行幸」、結城素明「兵車行」、渡辺香涯「春遊」、大森敬堂「秋景山水」、和田英作「渡頭の夕暮」、白瀧幾之助「稽古」、湯浅一郎「漁夫晚帰」、島田佳矣「徳川式室内裝飾」、河辺正夫「西洋式建築図案」等も出品された（明治三十五年三月農商務省発行『千九百年巴里万国博覧会 臨時博覧会事務局報告』および明治三十六年三月残務取扱所発行『千九百年巴里万国博覧会出品聯合協会報告』による）。

受賞者については『東京美術学校校友会月報』創刊号の本校関係者（現職教官と卒業生）の受賞に関する記事を転載する。

○巴里博覧會受賞者 四月二十四日の官報にて發表したり 本校に關係あるものは左の如し

### 金牌の部

|    |       |     |       |
|----|-------|-----|-------|
| 置物 | 沼田 一雅 | 銅置物 | 黒岩 淡哉 |
| 銅器 | 海野 美盛 | 銅器  | 香川 勝廣 |